

計画主体名	栃木県小山市・栃木県		
計画期間	H25～H29	総事業費（交付金）	66,000千円（33,000千円）
実施期間	H25～H26		

## 1 計画全体について

項目	チェック欄	判断根拠
目標及び事業活用活性化計画目標が、農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律及び同法に基づき国が策定する基本方針と適合しているか	○	定住等の促進に資する目標及び事業活用活性化計画目標を設定しているため、法律及び基本方針に適合している。
市町村総合計画、農業振興地域整備計画、土地改良事業計画、森林・林業基本計画、特定漁港漁場整備事業計画その他各種関連制度・施策との連携、配慮、調和等が図られているか	○	小山市総合計画実施計画等と事業の必要性、事業実施期間、事業費などの調和が図られている。 施策名：農業・都市と農村交流・グリーンツーリズムに位置付けられている
活性化計画及び交付対象事業別概要は関係農林漁業者をはじめとした地域住民等の合意形成を基礎としたものになっているか	○	関係農業者の要望を基に事業を計画している。
活性化計画の策定にあたり、女性の意見や提案などを聞く機会を設けているか		
事業の推進体制は確立されているか	○	地元土地改良区から推進員を選出し、連携を図りながら事業の推進を図る。
目標及び事業活用活性化計画目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	基盤整備を促進することにより営農条件が改善されて、農業従事者の意欲と地域共同の意識が向上して定住等が促進されるため、整合性が確保されている。
計画期間・実施期間は適切か	○	早期事業効果の発現が期待され、ガイドライン第四の2の(6)及び実施要領の運用第3の1に基づき、計画期間5年、実施期間2年は適切である。
交付金要望額は交付限度額（事業費×交付額算定交付率）の範囲内か	○	交付率1/2。66,000,000円×1/2=33,000,000円 よって、交付限度額の範囲にある。

2 個別事業について

項 目	チェック欄	判 断 根 拠
自力若しくは他の助成によって実施中又は既に完了した施設等を本交付金に切り替えて交付対象とするものでないか	○	新たに施設整備して地域活性化を図るものである。
増改築等若しくは合体又は古材を利用した施設整備を行う場合は、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領の運用に定める基準を満たしているか	—	該当なし。
交付対象とする施設等は減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第34号）別表等による耐用年数がおおむね5年以上のものであるか	○	U型水路・ヒューム管17年 平板ブロック護岸・トン管護岸14年 （農林畜水産関係補助金交付規則 別記様式（別表）により）
事業による効果の発現は確実に見込まれるか		
費用対効果分析の手法は適切か（農山漁村活性化プロジェクト支援交付金費用対効果算定要領（平成19年8月1日付け19企第106号農林水産省大臣官房長通知）により適切に行われているか）	○	平成24年度に費用対効果分析を含めた事業計画概要書を作成した。
上記の費用対効果分析による算定結果が1.0以上となっているか	○	算定根拠については、土地改良事業費用対効果分析指針にて算出しています。 総費用総便益比＝1.20 （総費用総便益比＝総便益費（現在価値化）/総費用（現在価値化））
事業内容、事業実施主体等については実施要綱等に定める要件等を満たしているか	○	実施要綱第3及び実施要領別表（1）生産基盤及び施設の整備、要件類別7により、適正である。
個人に対する交付ではないか、また目的外使用のおそれがないか	○	実施要綱第3及び実施要領別表（1）生産基盤及び施設の整備、要件類別8により、適切である。 受益は436戸と多数におよぶものを市が整備するもので、個人に対する交付ではない。事業内容が基盤整備であり、目的外に使用されることはない。
施設等の利活用の見通し等は適正か	—	該当なし。
地域間交流の拠点となる施設にあっては当該地区の入り込み客数や都市との交流状況（現状と今後の見込み）を踏まえているか	—	該当なし。
近隣市町村の類似施設等の賦存状況と利用状況等を踏まえ	—	該当なし。

	ているか。		
	利用対象者、利用時期など施設の利用形態を検討しているか	—	該当なし。
	施設等の規模や設置場所、地域における他の施設との有機的な連携等、当該施設等の利用環境等について検討されているか	—	該当なし。
	施設の利用や運営等に当たって、女性参画への配慮や促進のための取組がなされているか	—	該当なし。
	事業費積算等は適正か		
	過大な積算としていないか	○	土地改良事業等請負工事の価格積算要綱等及び栃木県の単価により積算しており過大となっていない。
	建設・整備コストの低減に努めているか	○	不足土となるため他事業より残土を受け入れることでコスト縮減を図る。
	附帯施設は交付対象として適正か(必要性はあるか、汎用性の高いものを交付対象としていないか)	—	該当なし。
	備品は交付対象として適正か(汎用性の高いものを交付対象としていないか)	—	該当なし。
	整備予定場所は、集客の立地性、農林漁業者の利便性等、施設の設置目的から勘案して適正か	○	現況水路を整備するものであるため、整備予定箇所は適正である。
	施設用地が確保されている又は確保される見通しがついているか	○	施設用地所有者は市であり、施設管理者である小山用土地改良区にも同意を得ている。
	体験交流機能に加え宿泊機能を備えた施設を整備する場合には、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領の運用(平成19年8月1日付け19企第102号農林水産省大臣官房長通知)に定める基準を満たすとともに、その必要性について十分に検討しているか	—	該当なし。
	交付対象は施設別上限事業費及び上限規模の範囲内か		
	処理加工・集出荷貯蔵施設については、「強い農業づくり交付金実施要領」(平成17年4月1日付け16生産第8262号農林水産大臣官房国際部長、総合食料局長、経営局長通知)別記Ⅱの第1の2の(4)のウの基準に照らし適正であるか	—	該当なし。
	地域間交流拠点については、延べ床面積㎡当たり29万円以内かつ延べ床面積1,500㎡以内であるか	—	該当なし。
	地域連携販売力強化施設については、以下の内容を満たすものとなっているか		
	地域内外又は地域間の相互連携の促進のための取組がなされているか	—	該当なし。

生産者の販売力強化・ブランド化等に資するために必要な施設であるか	－	該当なし。
1年を通して運営されるものであり、継続的に雇用と所得を生み出す施設であるか	－	該当なし。
6次産業化や女性参画の促進に寄与する施設であるか	－	該当なし。
事業実施主体の負担（起債、制度資金の活用等を含む）について十分検討され、適正な資金調達計画と償還計画が策定されているか	○	小山市総合計画実施計画等で策定
入札方式は一般競争入札又はこれと同等の競争性のある契約方式によるなど適切なものとなっているか。一般競争入札に付さない場合は、その理由は明確か	○	一般競争入札に付す予定である。
整備後において施設の管理・運営が適正に行われる見込みであるか		
維持管理計画は適正か（施設の管理・更新に必要な資金は検討済みか）	○	整備後は小山用水土地改良区にて適切に管理する。
収支を伴う施設等にあつては収支計画を策定しているか。また、事業費が5,000万円以上のものについては経営診断を受け、適正なものとなっているか	○	収支を伴うものではない。
他の事業との合体施行等の場合、事業費の按分等が適正に行われているか	○	他の事業との合体施行はない。
他の事業への重複申請（予定も含む。）はないか（ある場合には、事業名を記載すること。）	－	他事業への申請はない。

注1 項目について該当が無い場合はチェック欄に「－」を記入すること。

2 活性化計画を公表する場合、事前点検シート及び判断の根拠となった資料についても併せて公表するものとする。